

平成31年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)



平成30年10月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブロッコリー
 コード番号 2706 URL <https://www.broccoli.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 善之
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 (氏名) 渡邊 朋浩

TEL 03-6685-1366

四半期報告書提出予定日 平成30年10月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 平成30年10月25日開催予定 機関投資家、アナリスト、マスコミの方を対象

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年2月期第2四半期の業績(平成30年3月1日～平成30年8月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年2月期第2四半期	2,761	22.6	335	292.9	341	244.5	225	248.6
30年2月期第2四半期	2,252	△19.1	85	△76.7	99	△73.4	64	△73.0

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年2月期第2四半期	25.76	—
30年2月期第2四半期	7.39	—

(注) 平成30年9月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。
 平成30年2月期の期首に株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年2月期第2四半期	9,899	8,978	90.7
30年2月期	10,025	8,993	89.7

(参考) 自己資本 31年2月期第2四半期 8,978百万円 30年2月期 8,993百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年2月期	—	0.00	—	5.50	5.50
31年2月期	—	0.00	—	—	—
31年2月期(予想)	—	—	—	17.00 ～24.00	17.00 ～24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成30年9月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。平成31年2月期(予想)の期末の配当金につきましては、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載しております。詳細は、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。
 また、平成31年2月期(予想)の配当性向は、35.0%～37.2%となります。

3. 平成31年2月期の業績予想(平成30年3月1日～平成31年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,400 ～6,000	△0.2 ～10.9	600 ～900	3.3 ～54.9	600 ～900	0.9 ～51.4	400 ～600	△1.2 ～48.1	45.73 ～68.59

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

平成30年9月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。通期の1株当たり当期純利益につきましては、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載しております。詳細は、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年2月期2Q	8,747,642 株	30年2月期	8,747,642 株
② 期末自己株式数	31年2月期2Q	265 株	30年2月期	265 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	31年2月期2Q	8,747,377 株	30年2月期2Q	8,747,377 株

(注) 平成30年9月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。

平成30年2月期の期首に株式併合が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日及び現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成されたものでありますが、業績等につきましては様々な要因により、今後大きく異なる可能性があります。

2. 当社は、「財務諸表等規則」に従い財務諸表を作成しております。

3. 当社は、平成30年5月25日開催の第24期定時株主総会において、株式併合及び単元株式数の変更について承認可決され、平成30年9月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。併せて、単元株式数を1,000株から100株へ変更しております。なお、株式併合を考慮しない場合の平成31年2月期の配当予定及び業績予想は以下のとおりであります。

(1)平成31年2月期の配当予定 1株当たり配当金(期末) 3円40銭～ 4円80銭

(2)平成31年2月期の業績予想 1株当たり当期純利益(通期) 9円15銭～13円72銭

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
3. 四半期財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	8
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社が属するエンターテインメント業界におきましては、スマートフォンゲーム市場の継続した成長に加え、国内家庭用ゲーム市場も順調に推移しており、国内ゲーム市場の更なる拡大への期待が高まっております。

当第2四半期累計期間における当社の業績におきましては、第1四半期から継続して女性向け主力コンテンツ『うたの☆プリンスさまっ♪』のイベントグッズ販売が売上高に大きく寄与いたしました。

本年6月から開催した夏季限定『うたの☆プリンスさまっ♪』コンセプトショップ『SHINING STORE 2018』は、東京・大阪・名古屋・福岡の4大都市で開催し、好評なネコのぬいぐるみ『PRINCE CAT』シリーズの新商品を発売。また、マジカルキッチン株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：大澤 雅代）の運営する手作りキャンディー専門店『CANDY SHOW TIME（キャンディー・ショータイム）』とのコラボレーション商品も大変好評で『SHINING STORE 2018』全体でも前年実績を上回る売上高となった結果、『うたの☆プリンスさまっ♪』関連グッズは、前年同期の売上高を超えて好調に推移いたしました。

加えて、『うたの☆プリンスさまっ♪』ゲームアプリ『うたの☆プリンスさまっ♪ Shining Live』は、4月に大型アップデートを行い、8月に1周年特別イベントを開催したことに伴い、本件ロイヤリティは引き続き安定的に推移しております。

次に、新コンテンツとして8月に発売いたしましたPlayStation®Vita専用ソフト『殺し屋とストロベリー』は、販売初動での業績貢献には至りませんでした。コンテンツ育成に向けて新展開を企画してまいります。

さらに、他社ライセンスグッズにおきましては、当社発のヒットぬいぐるみシリーズ『ちゅんコレ』が多数の他社タイトルのライセンス許諾を得られたことでラインナップの大幅強化に結び付けました。特に7月から8月にかけて当社通販サイトにて開催した、人気タイトルの『ちゅんコレ』の新作をラインナップしたフェア企画「夏のちゅんコレ祭り」が好調であったこと等により、上述の『うたの☆プリンスさまっ♪』関連グッズと同様に、前年同期の売上高を超えて好調に推移いたしました。

次に、トレーディングカードゲーム『Z/X -Zillions of enemy X-（ゼクス ジリオンズ オブ エネミー エックス）』（以下、『Z/X（ゼクス）』）におきましても、第1四半期から継続して順調であり、6月のジューンブライドに合わせて人気ゼクスがウェディング衣装姿で登場するEXパック第11弾『よめ♥ドラ』も大変好調な販売で推移した結果、上期において前年を上回る売上高を達成。続いて第3四半期の9月に発売いたしました『Z/X（ゼクス）プレミアムパック ゼクプレ!』では、好評をいただいております「イグニッション・オーバーブースト」システムを人気のゼクス達にも実装したプレミアムパックとなっており、好調な販売が継続、シリーズ累計270万パックを突破しております。引き続きのコスト改善も図りながら、通期の売上高・利益のV字回復・業績寄与に向け順調に進捗しております。

これらの結果、当第2四半期累計期間における売上高は2,761百万円（前年同期比122.6%）、営業利益335百万円（前年同期比392.9%）、経常利益341百万円（前年同期比344.5%）、四半期純利益225百万円（前年同期比348.6%）であり、前年同期実績から大幅な業績回復を達成することができました。

第3四半期におきましても、9月に『うたの☆プリンスさまっ♪』8周年企画イベントとして、デザイナー 丸山 敬太氏を迎えての『うたの☆プリンスさまっ♪』コラボレーション企画第2弾『うたの☆プリンスさまっ♪ 雪月花 Eternal Moment』を開催、また『うたの☆プリンスさまっ♪ 劇団シャイニング』の新シリーズ舞台化第1弾『ポラリス』も高評価をいただきながら公演いたしました。また、トレーディングカードゲーム『Z/X（ゼクス）』は、11月に大型イベント『ゼクストリーム 2018. WINTER in 秋葉原』（ベルサール秋葉原）の開催を予定しており、一層の売上拡大を図ってまいります。

5月に概要の発表をいたしましたとおり、新作コンテンツも進行しており、引き続きさらなる業績向上に向けて邁進してまいります。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産の残高は7,631百万円で、前事業年度末に比べ304百万円減少しております。主な内容は、商品及び製品の増加36百万円などの増加要因に対し、現金及び預金の減少275百万円、売掛金の減少154百万円などの減少要因であります。

(固定資産)

当第2四半期会計期間末における固定資産の残高は2,268百万円で、前事業年度末に比べ178百万円増加しております。主な内容は、有形固定資産の増加47百万円、無形固定資産の増加64百万円、投資その他の資産の増加66百万円などの増加要因であります。

(流動負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債の残高は808百万円で、前事業年度末に比べ110百万円減少しております。主な内容は、賞与引当金の増加30百万円などの増加要因に対し、買掛金の減少102百万円、未払法人税等の減少43百万円、役員賞与引当金の減少12百万円、返品調整引当金の減少1百万円などの減少要因であります。

(固定負債)

当第2四半期会計期間末における固定負債の残高は113百万円で、前事業年度末と同水準で推移しております。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は8,978百万円で、前事業年度末に比べ15百万円減少しております。これは、四半期純利益225百万円が計上された一方で、剰余金の配当240百万円が行われたことが主な要因であります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前事業年度末と比べて275百万円減少し3,549百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは151百万円の資金の増加（前年同四半期累計期間は73百万円の資金の減少）となりました。その主な内訳は、仕入債務の減少額102百万円、たな卸資産の増加額29百万円、役員賞与引当金の減少額12百万円、返品調整引当金の減少額1百万円などのマイナス要因と、税引前四半期純利益の計上による329百万円、売上債権の減少額154百万円、減価償却費51百万円、賞与引当金の増加額30百万円などのプラス要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは184百万円の資金の減少（前年同四半期累計期間は30百万円の資金の減少）となりました。その主な内訳は、有形固定資産の取得による支出90百万円、無形固定資産の取得による支出71百万円、有形固定資産の処分による支出12百万円、長期前払費用の取得による支出11百万円などのマイナス要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは241百万円の資金の減少（前年同四半期累計期間は178百万円の資金の減少）となりました。その主な内訳は、配当金の支払額237百万円、リース債務の返済による支出3百万円であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年4月13日の「平成30年2月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)」で公表いたしました平成31年2月期の通期業績予想及び配当予定に変更はありません。

なお、前述の通期業績予想及び配当予定の表示方法につきましては、後述の「※レンジ形式の業績予想及び配当予定について」に記載しております内容に基づき、サマリー情報記載のとおりレンジ形式での表示といたします。

※レンジ形式の業績予想及び配当予定について

「ツインエンジン」(「自社内にて開発するコンテンツのヒット創出及びハイリターンの追求」、「リアルグッズ製作での確実な収益確保」)の2つを両立する事業戦略を推進しております当社の売上構成は、

A. ユーザー評価は、その感性に委ねられ、まさに発売してみないと市場の反応が判別できないコンテンツ部門

B. マーチャンダイジング、マーケティングの手法が比較的通用し、努力度やPDCA等の成果が売上と利益に反映され易い、グッズ部門

に大別されます。

更に、A. コンテンツ部門におきましては、売上の振れ幅に加えて、その販売数量により利益率が大きく上下します。よって当社は、期初から第2四半期終了時までには売上・利益・配当ともにレンジ形式での予想数字として、期末に近づく数字の確実性の増す第3四半期終了時に、単独数字での発表を予定しております。ただし業績の進捗を踏まえ、前述の期日以前に合理的な算定が可能になった場合には、その時点で速やかに開示いたします。

なお、業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日及び現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成しておりますが、業績等につきましては経営環境の変化やその他様々な要因により大きく異なる可能性がありますので、その場合には開示が可能となった時点で速やかに業績予想の修正を公表いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成30年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,824,299	6,549,177
売掛金	765,848	611,253
商品及び製品	61,545	97,890
仕掛品	108,795	102,397
原材料及び貯蔵品	777	699
その他	183,235	277,988
貸倒引当金	△9,034	△8,218
流動資産合計	7,935,467	7,631,188
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,135,238	1,215,618
減価償却累計額	△203,376	△190,274
建物（純額）	931,861	1,025,344
土地	907,414	907,414
その他	174,049	114,655
減価償却累計額	△88,258	△75,047
その他（純額）	85,791	39,608
有形固定資産合計	1,925,067	1,972,368
無形固定資産	36,339	100,831
投資その他の資産		
その他	130,897	197,141
貸倒引当金	△2,000	△2,000
投資その他の資産合計	128,897	195,141
固定資産合計	2,090,304	2,268,341
資産合計	10,025,771	9,899,529
負債の部		
流動負債		
買掛金	448,158	345,349
未払法人税等	167,249	123,249
返品調整引当金	63,826	61,955
賞与引当金	36,330	67,294
役員賞与引当金	29,000	17,000
その他	174,193	193,399
流動負債合計	918,758	808,247
固定負債		
退職給付引当金	10,334	10,584
役員退職慰労引当金	39,516	42,166
その他	63,310	60,448
固定負債合計	113,161	113,199
負債合計	1,031,919	921,446

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成30年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,361,275	2,361,275
資本剰余金	2,066,627	2,066,627
利益剰余金	4,564,025	4,548,808
自己株式	△478	△478
株主資本合計	8,991,448	8,976,232
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,403	1,850
評価・換算差額等合計	2,403	1,850
純資産合計	8,993,852	8,978,083
負債純資産合計	10,025,771	9,899,529

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
売上高	2,252,748	2,761,643
売上原価	1,557,849	1,835,942
売上総利益	694,899	925,700
販売費及び一般管理費	609,427	589,884
営業利益	85,472	335,816
営業外収益		
受取利息及び配当金	50	49
不動産賃貸料	36,489	38,492
その他	2,809	1,455
営業外収益合計	39,349	39,996
営業外費用		
支払利息	361	261
不動産賃貸費用	25,304	33,939
その他	10	39
営業外費用合計	25,676	34,239
経常利益	99,145	341,573
特別損失		
固定資産除却損	12	169
固定資産処分損	—	12,205
特別損失合計	12	12,374
税引前四半期純利益	99,133	329,199
法人税等	34,492	103,862
四半期純利益	64,640	225,336

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	99,133	329,199
減価償却費	39,847	51,107
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△7,800	△815
賞与引当金の増減額 (△は減少)	21,352	30,963
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△27,000	△12,000
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	—	250
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	—	2,650
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△5,135	△1,870
受取利息及び受取配当金	△50	△49
支払利息	361	261
固定資産除売却損益 (△は益)	12	169
固定資産処分損益 (△は益)	—	12,205
売上債権の増減額 (△は増加)	△143,854	154,595
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△114,359	△29,870
仕入債務の増減額 (△は減少)	126,481	△102,808
その他	△80,269	△143,264
小計	△91,280	290,721
利息及び配当金の受取額	50	49
利息の支払額	△361	△261
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	17,684	△139,360
営業活動によるキャッシュ・フロー	△73,906	151,148
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△5,403	△90,395
有形固定資産の処分による支出	—	△12,205
無形固定資産の取得による支出	△17,998	△71,091
長期前払費用の取得による支出	△11,065	△11,065
その他	3,512	60
投資活動によるキャッシュ・フロー	△30,955	△184,697
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△173,858	△237,624
リース債務の返済による支出	△4,704	△3,949
財務活動によるキャッシュ・フロー	△178,562	△241,574
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△283,425	△275,122
現金及び現金同等物の期首残高	3,624,533	3,824,299
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,341,108	3,549,177

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社はエンターテインメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。